

はえしとすすはさとも屋々ぬこの表

とや〜とりの有邪無邪の関

といふ歌ありこの表とふ親香表花表并表
をいふとをる海山の下三礫山の工はあり
村老女麻を搦て有や無邪の関といふと
授有といふ〜歌の心を案する〜この
表をこさんとととと親香なれをあら〜えむ
よ〜は〜親をめのありた関を出てあさせ
はと〜とと然て関の関〜と事を詠ける

よや 岩根足柄の親所とい（た三礫の山後
に〜あれを平地をやりあとい〜いなる
人いあけな〜といは山をやり事な〜す弱
なりと柄といふハ方一の親所〜一里は餘
山皆抜石〜して親の目を見ら〜りあとい〜
蓄蓄り〜に足をとるハ底深く茂荆棘透
冒なく生茂り親を踏む事〜りかつをを
險阻〜して往來する人け及をぬるに虫の
這ふりあ〜とくに〜して足をとやめる事〜あ
らにた月柄は〜一丈礫の時ハ万卒もぬり